

## えびの岳：動植物

えびの岳は温帯林と暖温帯林の境界域です。下部の斜面には針葉樹や常緑広葉樹が生い茂っていますが、標高の高いところには落葉樹が生育しています。木々の間は不自然なほどまっさらです。過去に比べて数が増えたシカが、シキミやハイノキのような毒のある植物や食べられない植物だけを残して下草を食べ尽くしてしまうためです。これは、1980年代以降、人間の経済活動の変化や気候変動などの様々な要因の結果として比較的近年みられるようになった生態系への影響です。今後、自然に新たなバランスが生まれるかどうか注視されています。

イノシシ、テン、野ネズミもこの地域を徘徊しており、夏にはカッコウの鳴き声も聞こえます。降雨量が多く日陰がたくさんあるため、この地域にはキノコ類が豊富に生えています。

また、えびの高原には、この地域の河川沿いの日当たりの良い場所にしか生えないソカイドウ（field crabapple, *Malus spontanea*）という植物が生育しています。ソカイドウは濃淡のピンクに染まる花と小さな実をつけます。この植物は国の天然記念物に指定されており、絶滅を防ぐために積極的な保全活動が行われています。